

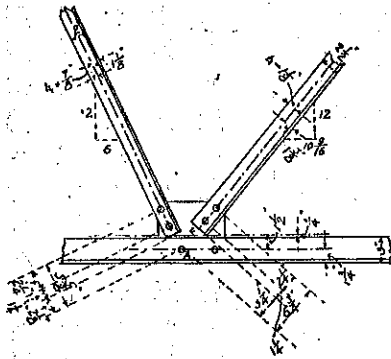
2300

以上ノ曲線ヲいりのいす人道橋梁課ノ標準設計ニ據レルモノニ用フル時ハ最大誤差ハ上構ニ對シ値ニ三五ばいせんと下構ニ對シテハ五ばいせんとニ過キス(元)

接合鈹圖表

(Engineering News, April 13, 1915.)

茲ニ掲クル圖表ハ結構ノ局部設計ニ於テ角材ノ端ヨリ其ノ働點ニ至ル距離並ニ接合板ノ大サヲ定ムル爲メノ簡便方法トシテ工夫セルモノナリ其ノ用法ハ第一圖ニ示セル接合點ヲ例トシテ述ヘン



第一圖ニ於テ AF ナル距離ヲ求メントスルニハ先ツ尺度 S ノ綴釘線 (Gauge Line) FG ノ角度即チ $12:10\frac{9}{16}$ ノ角度線ニ沿フヤウニ第四圖ニ示セル圖表ノ上ニ置クヘシ而シテ尺度 S ノ腹角材端ト記セル部分ニハ任意角材ノ綴釘支距 (Gauge of rivet) AF 目盛セルモノナル故ニ此ノ場合ニアリテハ二分ノ一角材ノ綴釘支距ハ第一圖ニ示セル如ク $1\frac{3}{8}$ ナルヲ以テ此ノ目盛ノ $1\frac{3}{8}$ カ丁度圖表ノ餘隙線 (Clearance line) ノ上ニ來ルヤウ尺度 S ラ江ラシテ第四圖ニ示セル如キ位置ニアラシム而シテ尺度 S ノ綴釘線上ノ目盛 AF ヲ讀メハ AF ノ距離 $S\frac{1}{4}$ ヲ得斯ノ如クシテ AF ノ距離ヲ求メ得タル時ハ働點 A ヨリ腹角材ノ最端綴釘ノ中心ニ至ル距離ハ之ニ釘距ヲ加ヘテ容易ニ求メ得ヘク此ノ場合ニアリテハ $S\frac{1}{4}$ ヲ得ヘシ然ル時ハ第四圖ノ圖表ノ $12:10\frac{9}{16}$ ノ角度線ニ沿ヒ A' ヨリ $S\frac{3}{4}$ ノ距離ニアル一點ヲ取り其ノ點ノ座標ヲ

板 葦 混凝土ノ收縮ニヨル鐵筋混凝土龜裂發生ノ原因ニ就キテ

らーべす(Labes)氏カ其ノ論文(Die Begrenzung der Zugspannungen des Betons in Eisenbahnbrücken aus Eisenbeton.

(Zeitschrift der Bauverwaltung 29. Okt. 1913.)

混凝土ノ收縮ニヨル鐵筋混凝土龜裂發生ノ原因ニ就キテ

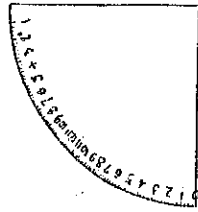


圖 三 第

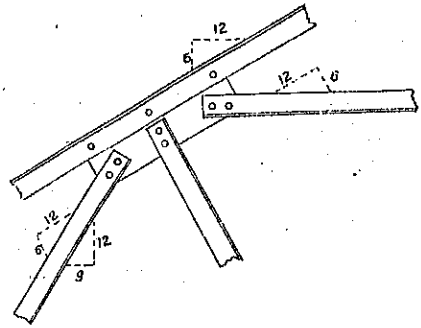


圖 二 第

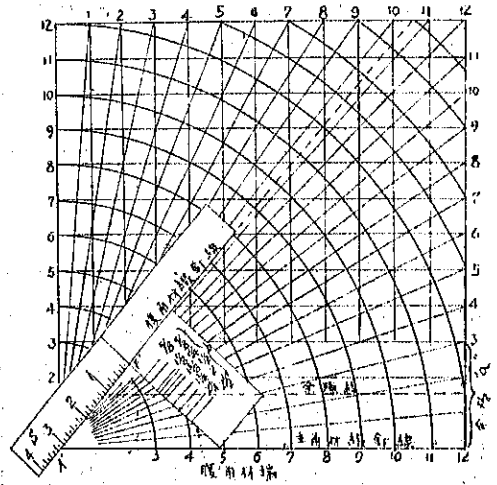


圖 四 第

ノ角度ヲハ第三圖ニ示セル如キ分度器ニヨリテ接合板ノ大サヲ定ムルコトヲ得ヘシタルモノト同様ノ方法ニヨリテ接合板ノ大サヲ定ムルコトヲ得ヘシ(完)

讀メハ是レ最端綴釘ノ中心ヨリ
 主角材ノ綴釘線ニ直角ナル距離
 並ニAヨリ該線ニ平行ナル距離
 ヲ得ヘシ故ニ最端綴釘中心ヨリ
 接合板ノ端ニ至ル距離ヲ適當ニ
 定ムレハ接合板ノ大サヲ定ムル
 コトヲ得ヘシ又主角材カ傾斜セ
 ルモノニシテ且ツ凡テノ角材ハ
 水平線ニ對シテ示サレタルモノ
 ナル時ハ主材並ニ腹材ノ角度ヲ
 圖表ノ角度線ノ上ニ取リ其ノ間